

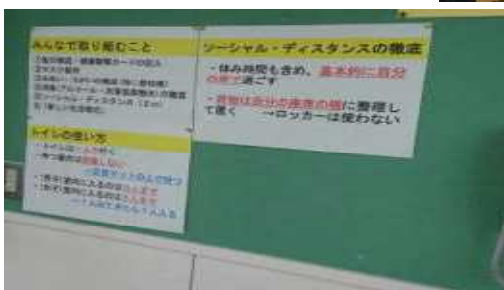
創造・鍛練・友愛

令和2年5月20日号(小満)
竜北中学校だより
文責 校長 西村敏昭

夢の実現(創造)へ 自ら挑み(鍛練)とともに磨き合う(友愛) 竜中生
～故郷(ふるさと)を愛し、地域での学びを輝く未来へ発信～

待ち望んだ、学校再開！皆様のご努力に感謝いたします！

5月20日(水)から、「慣らし登校」として、午前中ですが全ての生徒が登校し、学校らしい景色が戻ってきました。6月1日(月)からいよいよ再開です。学習のことや生活、これから先のことなど不安定要素も多いのですが、それ以上の楽しみ、喜び、そして明るい今後を感じることができます。これも感染予防に万全を期して、子どもたちを守り、支えて頂いたご家族、そして地域の皆さまのおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。国や熊本



県等からもありますように、新型コロナウイルス感染症が完全終息するまでは、みんなの「命・健康」を守ることが第一です。ご家庭や地域の皆さんともこれまで以上に連携しながら、すべての子どもたち、竜中生の健やかな成長に向けて取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。感染防止のために！ ○教室やトイレでの密集を避けます ○飛沫感染のリスクを下げます ○生活のきまりを検討します

～真っ白な靴が物語る、2ヶ月です！～

登校時にはすべての生徒がマスクを装着していて、表情はあまり見えませんが、新入生の初々しさはまだまだ眩しく、輝いています。そして、入学時に購入されたと思われる、新しい靴がこの2ヶ月の重さを感じます。きっと、生徒の足下で、ウズウズしていたのではないのでしょうか。こんな時だからこそ、みなさんの登校を支えるもの全て(靴や自転車だけでなく、家族や全ての方)に感謝の気持ちを感じることが出来ます。感染が広がらないこと、すべての人々の命が守られることを願わずにはおれません。



片務手の島野先生がみなさんの出迎えのために汗を流して、きれいな花壇を整備して頂きました。本当にありがとうございます！



感謝して使います。手づくりマスク！

休校の期間中に給食共同調理場や学校協働本部コーディネータの先生方が氷川町小中学校の全ての児童生徒に手づくりのマスクをつくらせて下さいました。業務をこなしながらの作業ですが、とても丁寧につくられていて、温かいメッセージも添えてありました。3年生の山本さんが代表で受け取り、みなさんにお配りしました。心のこもったマスクは、ウイルスなんてシャットアウトしそうに感じます。本当にありがとうございます。(23日熊日新聞に記事の掲載あり)



体調管理には万全の体制で！

新型コロナウイルス感染症に限らず、疲労や睡眠不足などは体調を悪化させます。久々の登校で疲れもたまりやすくなりますので、夜や休日の過ごし方には十分気をつけて欲しいと思います。

新型コロナウイルスに負けるな！私たち！

「新しい生活様式」 これまでになかった苦渋の決断！ 前を向いて、未来を見据えて、たくましく！

学校は6月1日に再開する予定ですが、全国的にもまだまだ予断を許さない状況が続いています。すべての人の「命・健康」を守るため、国をあげて対策に取り組んでいます。「自分の命を守る」こと、そして「身近な人の命を守る」ために「感染しない」「感染させない」ことに全力で取り組むべきだと考えます。それが、多忙を極める医療従事者の皆さんを守り、患者さんを守ることになります。学校でも家庭でも「新しい生活様式」と言われる、これまでの常識にとらわれず、「感染拡大防止」に向け、鋭利努力していきましょう。

また、そのためにこれまでは当たり前だったこともできなくなっている事もあります。社会生活はもとより、中学校でも4、5月を含め、これまでとは違った行事の実施や生活になります。高校総体（インターハイ）や全国中体連大会などが中止されています。先日は、「高校野球夏の甲子園大会および地区予選」も中止という、苦渋の決断がありました。もちろん社会人の大きな全国大会もすべて順延もしくは中止になっています。参加に向けて努力を重ねている人にとっては、悔しくてたまらない事でしょう。しかし、何度も申しますように、「命」を守るための措置であり、それは「自分自身の命」も含まれるのです。甲子園の中止を受けて、多くの方が励ましのメッセージを発しておられますのでご紹介します。だれにでも通じる人の生き方に関わる事だと感じます。

・「甲子園をめざしていた球児たちは、想像しえないほどの苦しみとむなしさを感じているはずです。今はその感情を受け止めるのに、時間が必要。これ以上の苦しみはないと思いますが、だからこそ飛躍的な成長ができるチャンスです。将来、『今回の中止が今の自分がある理由です』と言えるよう、この大きな苦しみを力に変えてくれると信じています。（日本ハムファイターズ栗山英樹監督）

・「人生はどんな状況でも立ち上がって戦うし、社会に出れば日々戦いが待ち受けている。仲間や支えてくださる方とも普通に大会が行われた時より強い絆が生まれると思う。仲間と支え合って、これから社会に出ても頑張っていきたい」（阪神タイガース藤川球児投手）

・「（甲子園）優勝は（思い出の）一部に過ぎず、仲間と過ごした日々を思い出す。もし甲子園がなかったとしても、仲間が後ろに3年間いてくれてよかったなという思いが強い」（日本ハム・斎藤祐樹投手）

・「特にこれが最後となる3年生のことを思うと自分も胸が痛くなる。ただ、一つだけ言えることは、今までやってきたことが無駄になることはない。この先の人生で絶対に生きる」（ロッテマリナーズ平沢大河選手）

・球児たちの気持ちを思うと何ともやり切れない。簡単に気持ちを切り替えてとは言えないが、これまでの努力が全く無駄になることはなく、必ず人生の糧になることは信じてほしい。（ソフトバンク・工藤公康監督）

・めっちゃくちゃ残念。今すぐに切り替えは無理だと思うけど、特に高校3年生には、この先野球をする、しないは関係なく、次に進んでいくための準備をしてもらえればと思う。（西武・森友哉捕手）

・高校球児、サポートする方々、関係者の方々の気持ちを考えるとかける言葉も見つからない。今までの努力と今の気持ちが無駄になることは絶対にならないと思うし、将来、何かに役立つと思うので頑張っていきたい。（ヤクルト・山田哲人内野手）

・複雑な気持ち。大きな目標はなくなるが、人として、野球人として成長してほしいし、成長できるように頑張っていきたい。（巨人・小林誠司捕手）

・「すぐに気持ちを切り替えるのは難しいだろう。しかし、厳しい場面を切り抜けるために日ごろの苦しい練習に耐えてきたはず。腐らずに乗り越えてほしい。今が耐える時だ。」（元智弁和歌山高校高嶋仁監督）

「今やるべき事、やれる事に全力を尽くすこと」が、いつの時代も求められているのではないのでしょうか。自分のために！みんなで協力して生きましょう！

*「5月図書館だより」発行しました。（HPに掲載、是非ご覧ください） 竜中HPへ↑

